21 世紀減災社会シンポジウム

気候変動時代の豪雨災害に備える

～西日本豪雨５年の歩みから学ぶ

日　時　2024（令和６）年１月 27 日（土）13：30 ～ 17：00

場　所　山陽新聞社さん太ホール（岡山市北区柳町２-１-１）

『平成30年７月豪雨災害デジタルアーカイブ』より『真備・上空から』　【写真提供・岡山県】

主　催　朝日新聞社、（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構

共　催　山陽新聞社

後　援　内閣府政策統括官（防災担当）、総務省消防庁、岡山県、兵庫県、関西広域連合

開催趣旨

科学技術の粋を集めた大都市を一瞬のうちに破壊した阪神・淡路大震災を機に、これまでの物質文明中心の社会のあり方を見直し、人と自然との共生、安全安心を優先する“災後の文明”の創造が求められています。また、近年、気候変動の影響もあり、日本各地で豪雨災害が激しさを増しながら頻発するようになっています。

こうした認識のもと、2018 年 7 月の西日本豪雨発生から 5 周年の節目を機に、被害が大きかった岡山県倉敷市（真備町）を事例に問題提起し、これからの豪雨災害への備えについて考える「21 世紀減災社会シンポジウム　気候変動時代の豪雨災害に備える　～西日本豪雨 5 年の歩みから学ぶ」を開催します。

プログラム

13：30 ～ 13：40　開会挨拶

宮田（みやた）　喜好（きよし）（朝日新聞社執行役員編集担当）

松田（まつだ）　正己（まさみ）（山陽新聞社代表取締役社長）

13：40 ～ 14：40　基調講演

中北（なかきた）　英一（えいいち）（京都大学防災研究所　所長・教授）

演　題　「気候変動と災害のメカニズムから、防災・減災を考える」

14：40 ～ 14：50　休　憩

14：50 ～ 16：30　パネルディスカッション

テーマ　「教訓を将来の災害にどう生かすか　～避難行動からまちづくりまで」

コーディネーター

御厨（みくりや）　貴（たかし）（ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター長／東京大学名誉教授）

パネリスト

木村（きむら）　玲欧（れお）（兵庫県立大学環境人間学部教授／岡山県防災アドバイザー）

伊東（いとう）　香織（かおり）（岡山県倉敷市長）

津田（つだ）　由起子（ゆきこ）（市民防災グループ「チームサツキ」代表）

古川（ふるかわ）　和宏（かずひろ）（山陽新聞社報道部副部長）

16：35 ～ 17：00　総　括

佐々木（ささき）　英輔（えいすけ）（朝日新聞社編集委員）

五百旗頭（いおきべ）　真（まこと）（ひょうご震災記念 21 世紀研究機構理事長）

PROFILE

基調講演

中北（なかきた） 英一（えいいち）（京都大学防災研究所　所長・教授）

京都大学大学院工学研究科修了後、京都大学防災研究所助手、助教授、工学研究科助教授を経て2004年より教授、2021年４月から現職。この間、アイオワ大学客員助教授、国立シンガポール大学客員研究教授等を併任。専門はレーダ水文学、水文気象防災学。気象レーダを用いた豪雨・洪水予測、気候変動による災害環境への影響評価に長年携わると共に、国内外の災害調査にも従事。土木学会水工学委員会委員長なども務め、土木工学と気象学を融合した防災研究を牽引している。土木学会研究業績賞、気象学会岸保賞、水文・水資源学会学術賞を受賞。現在、京都大学副理事、文部科学省技術参与、文部科学省・気象庁「気候変動に関する懇談会委員」、国土交通省「社会資本整備審議会委員」など多数を務めている。

パネルディスカッション　パネリスト（順不同）

木村（きむら） 玲欧（れお）（兵庫県立大学環境人間学部教授／岡山県防災アドバイザー）

早稲田大学人間科学部卒業、京都大学大学院情報学研究科修了、博士（情報学）。2019 年より現職。専門は防災心理学、防災教育学。西日本豪雨災害では、岡山県「平成30年７月豪雨」災害検証委員会委員を務めた。現在は、内閣府「防災教育チャレンジプラン実行委員」、内閣官房「国土強靱化に資する民間の取組事例の調査業務に関する審査委員」、国土交通省「社会資本整備審議会専門委員」などを務める。著書に『災害・防災の心理学』『戦争に隠された「震度７」』など多数。

伊東（いとう） 香織（かおり）（岡山県倉敷市長）

1990年東京大学法学部卒業後、郵政省（現　総務省）入省。2008年倉敷市長に就任し、これまで岡山県市長会会長、中核市市長会会長、全国市長会副会長、まち・ひと・しごと創生会議構成員などを歴任。現在は、中国市長会会長、中国治水期成同盟会連合会会長などを務める。平成30年７月豪雨災害で甚大な被害を受けた真備町地区の復旧復興の陣頭指揮を執り、災害に強い倉敷市を目指して、災害からの復興とみらいに向かうまちづくりを進めている。

津田（つだ） 由起子（ゆきこ）（市民防災グループ「チームサツキ」代表）

医療ソーシャルワーカーとして病院に勤務後、1996年に宅老所「ぶどうの家」を設立。その後介護保険制度スタートに合わせ、デイサービスなど展開。2007年より小規模多機能型居宅介護事業所となり、現在倉敷市船穂町地区と真備町地区で運営している。西日本豪雨での浸水被害時には、高齢者を避難所でケアし、その後災害時の避難の仕組みづくりである「サツキPROJECT」を「チームサツキ」メンバーと設立。サツキPROJECTは、2021年２月、総務省消防庁「第25回防災まちづくり大賞 消防庁長官賞」、令和３年防災功労者内閣総理大臣表彰（消防関係）を受賞。

古川（ふるかわ） 和宏（かずひろ）（山陽新聞社報道部副部長）

倉敷市真備町出身・在住。1998年山陽新聞社入社、政治部、経済部などを経て2023年３月から現職。岡山県総社市を取材エリアとする総社支局長時代の2018年７月、西日本豪雨が発生。洪水を原因とする総社市内のアルミ工場爆発事故を取材中、真備町地区に避難指示が発令された。濁流の中を取って返した自宅は２階まで浸水。救助に向かった近くの両親宅で取り残され、水が引くのを待った。直後から自らの被災経験や地域の復旧・復興状況をルポ。同年10月からは被災地の表情を住民目線でつづる随時連載「まび日誌」を執筆する。

PROFILE

パネルディスカッション　コーディネーター

御厨（みくりや）　貴（たかし）（ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター長／東京大学名誉教授）

東京大学法学部卒業。専門は近代日本政治史、オーラル・ヒストリー。東京都立大学教授、東京大学先端科学技術研究センター教授、放送大学教授などを歴任し、現在、東京大学先端科学技術研究センターフェロー、放送大学客員教授、サントリーホールディングス取締役。2017年よりひょうご震災記念21世紀研究機構現職。2018年紫綬褒章受章。2011年４月より東日本大震災復興構想会議議長代理、続けて2012年２月より翌年３月まで復興庁復興推進委員会委員長代理を務める。主な著書に『「戦後」が終わり、「災後」が始まる。』（千倉書房2011年）、『別冊アステイオン「災後」の文明』（共編、阪急コミュニケーションズ2014年）などがある。

総　括

佐々木（ささき）　英輔（えいすけ）（朝日新聞社編集委員）

1994年朝日新聞社入社。東京、大阪の科学医療部を中心に、災害、環境、医療など科学に関連する分野をおもに取材。2011年に発生した東日本大震災では、地震・津波や東京電力福島第一原発事故の取材を担った。東京本社科学医療部次長（デスク）を経て、2016年から編集委員。災害への備えを特集する紙面企画「災害大国」に携わっている。過去に松山、大津、福岡でも勤務。

五百旗頭（いおきべ）　真（まこと）（ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長）

京都大学法学部卒業、同大学院法学研究科修士課程修了。広島大学を経て神戸大学法学部教授。2006年防衛大学校長、2011年東日本大震災復興構想会議議長、2018年兵庫県立大学理事長などを歴任。2012年文化功労者、同年からひょうご震災記念21世紀研究機構理事長、2020年から宮内庁参与。著書に『米国の日本占領政策』(サントリー学芸賞)、『日米戦争と戦後日本』(吉田茂賞)、『占領期一首相たちの新日本』(吉野作造賞)、『大災害の時代－未来の国難に備えて』『大災害の時代－三大震災から考える』など多数。

倉敷市真備町で被災した２階建てのアパートを、市民防災グループ「チームサツキ」が改修した「避難機能付き共同住宅」。交流スペースを２階に整備し、車椅子で上がれるスロープを設置している。

【写真提供：パネリスト・津田由起子】

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
研究戦略センター

〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通１丁目５番２号
人と防災未来センター東館６F

TEL 078-262-5713　FAX 078-262-5122

E-mail：gakujutsu@dri.ne.jp　URL：https://www.hemri21.jp/